

審査TFにおける取組の報告

令和6年10月30日

取組の概要

（春頃予定）

2026年、建築確認におけるBIM図面審査を開始！

申請手続を効率化する、BIMデータで出力された
申請図書を活用した新しい建築確認申請がスタートします

<BIM図面審査の概要>

- ・ 申請者は、BIMデータの作成等に関する「入出力基準」に基づきBIMソフトウェアで作成した申請図書(PDF)を、「設計者チェックリスト」およびBIMモデル(IFC)とともに、申請時に提出します。
- ・ 審査者は、「設計者チェックリスト」に基づく項目について、整合性の確認を一部省略できます。
- ・ 申請図書の提出や指摘事項の応答などが、確認申請クラウド(CDE)を使用し効率良く行えます。

BIMモデル
(IFC)

建物形状の
伝達・把握が
スムーズ

BIM図面
(PDF)

整合性の高い図書を
効率的に作成・
審査を一部省略

確認申請クラウド
(CDE)

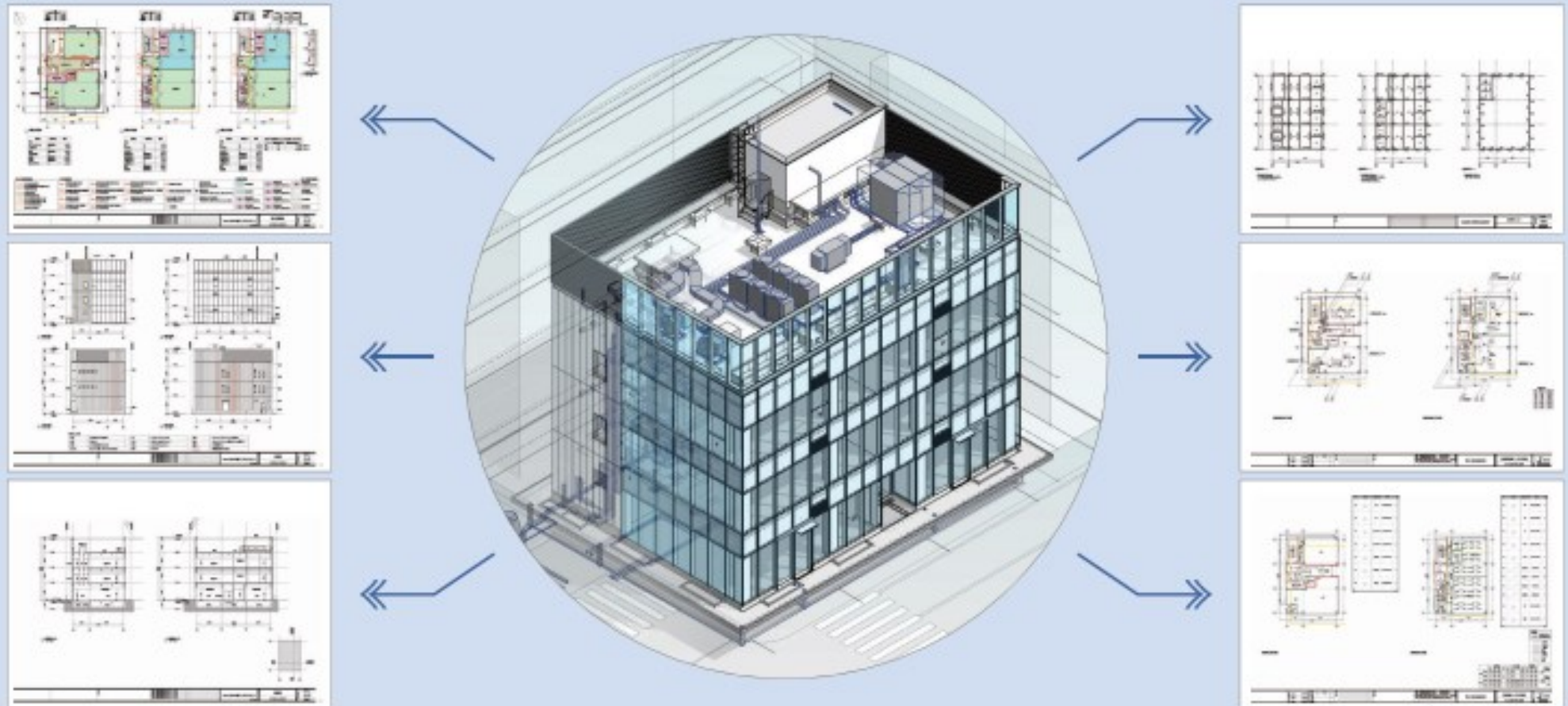
いつでも
どこからでも
申請・審査

申請者のメリット

- ・ BIMソフトウェアを使用し、整合性の高い申請図書の作成が容易に行える。
- ・ 窓口に出向かずWebにより自社から申請や指摘事項の対応が行え、申請作業の効率化が図れる。
- ・ 審査の効率化で、審査期間の短縮が期待できる。

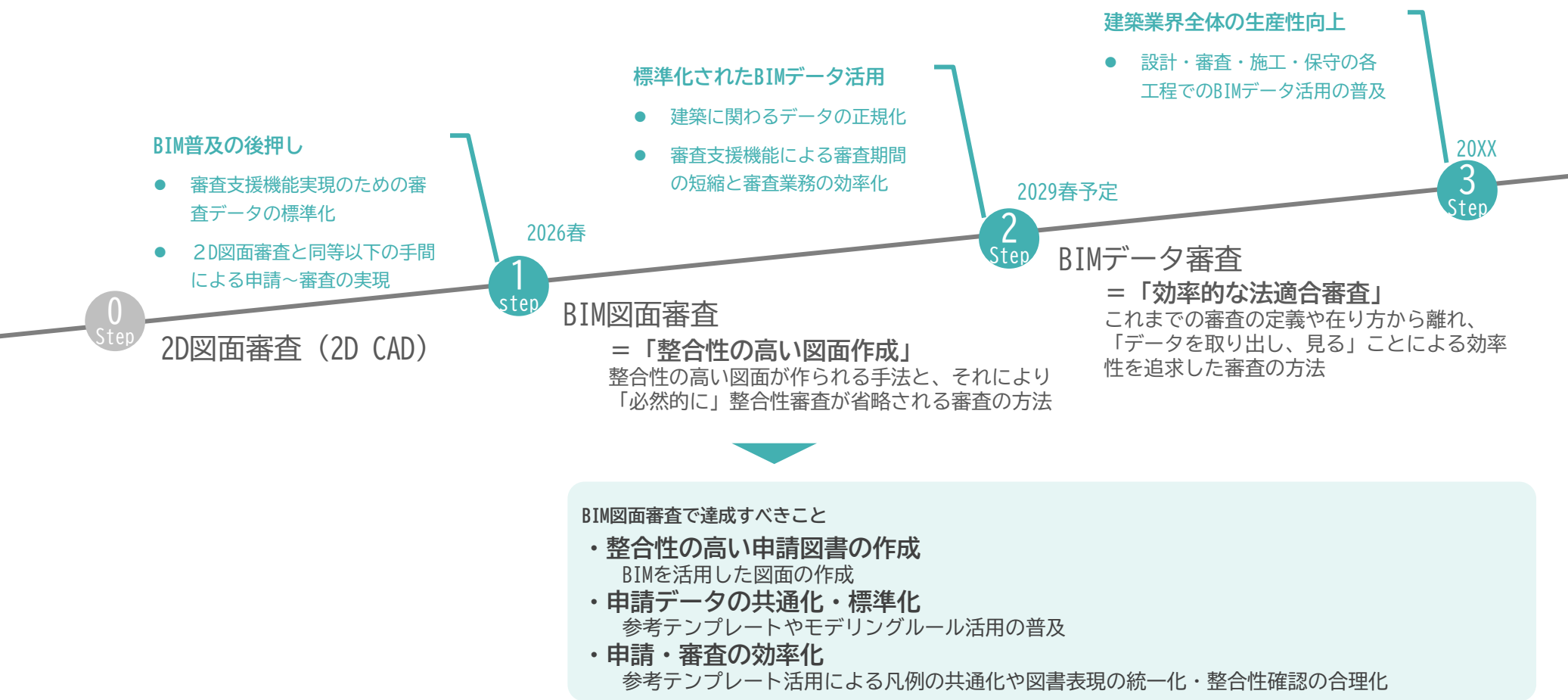
審査者のメリット

- ・ 設計内容の容易な把握や整合性確認の一部省略で審査作業の効率化が図れる。
- ・ 確認申請用クラウドの使用で、複数人による並行作業、遠隔拠点やテレワークでの作業が可能となる。

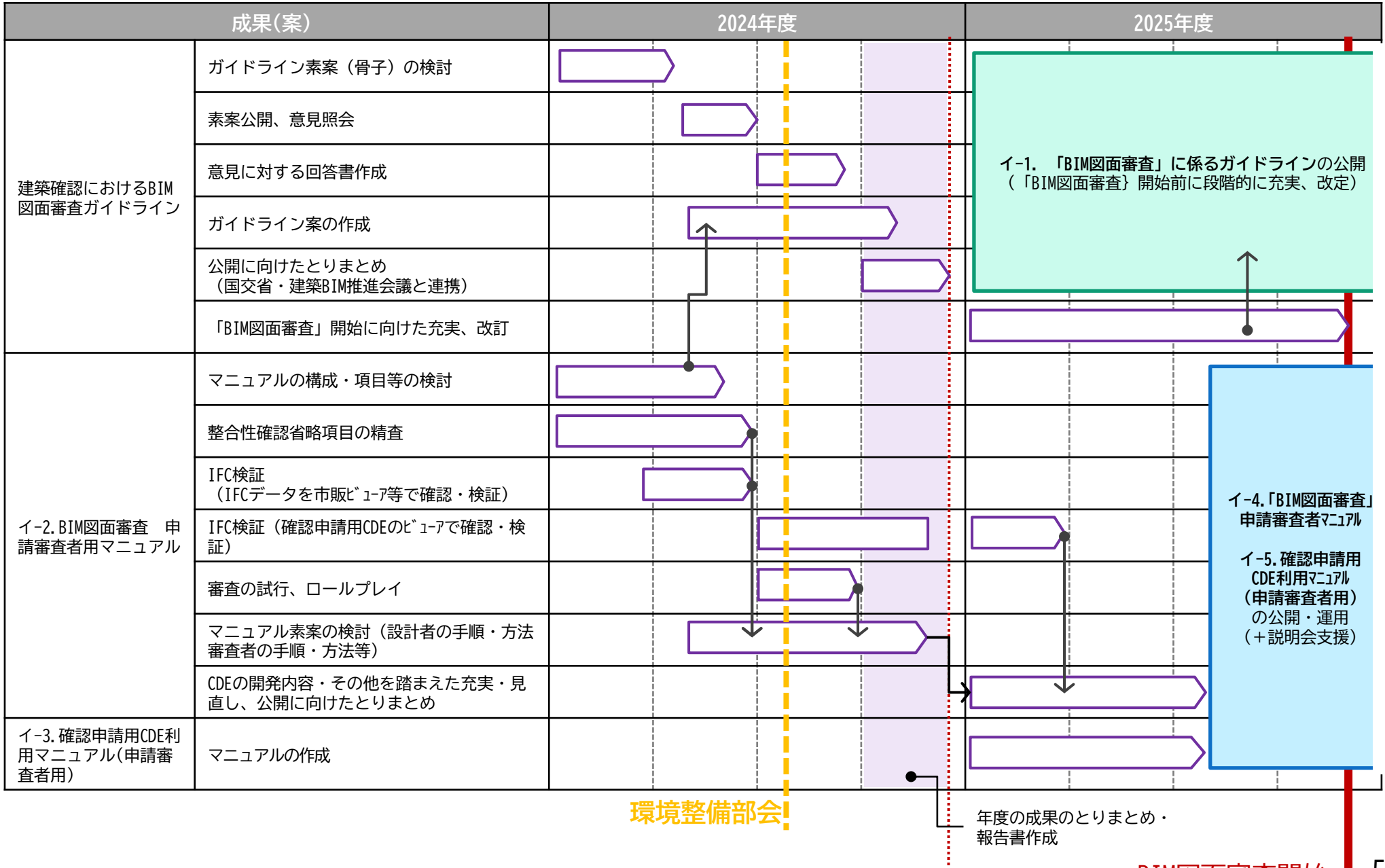


BIM図面審査の概要

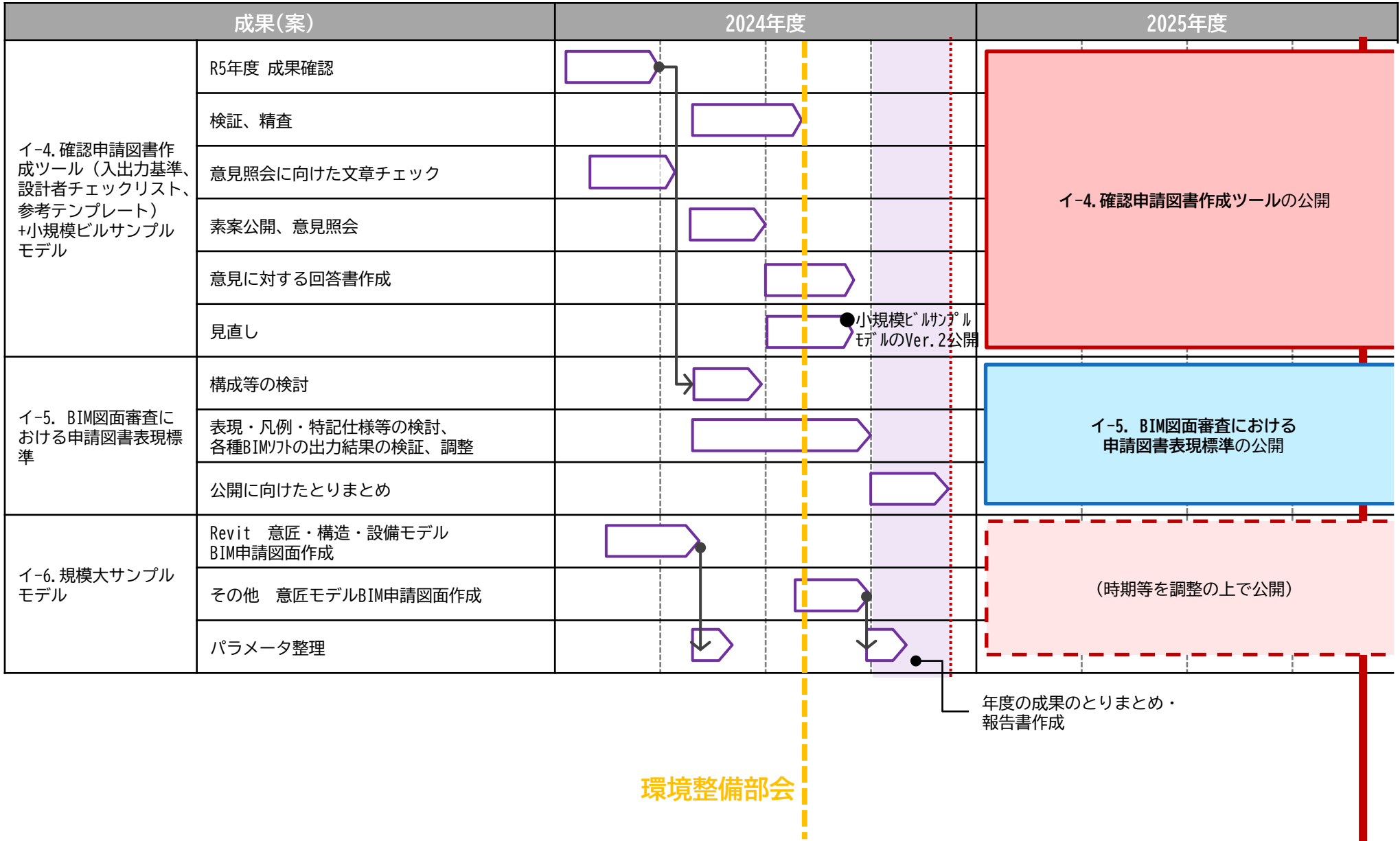
「BIM図面審査」「BIMデータ審査」の将来像と「BIM図面審査」の到達点



2025年度中のBIM図面審査の開始に向けた成果（案）と工程表



2025年度中のBIM図面審査の開始に向けた成果（案）と工程表



2025年度中のBIM図面審査の開始に向けた成果（案）と工程表

成果(案)			2024年度				2025年度			
□-1. 確認申請用CDE	開発準備(開発環境設定・仕様分析)									
	CDEシステム 製造 (情報共有機能)	2024年度 開発範囲設定								
		外部機能設計								
		内部設計 (基本設計)								
		内部設計 (詳細設計)								
		製造・単体テスト								
	電子申請受付システムとの連携のための仕様策定									
	CDEシステム製造 (2025年度)									
	(CDE運営団体のUAT支援)									
□-2. 確認申請用CDE 利用マニュアル(運営者用)	マニュアルの作成									
	(運営者用マニュアルを用いた内部研修支援)									

環境整備部会

【参考】 将来のBIMデータ審査の開始に向けた成果（案）と工程表

成果(案)			2024年度				2025年度			
ハ-1. 「BIMデータ審査」の定義（案） ハ-2. 「BIMデータ審査」で実現に向け必要な成果・検討事項案のリスト	審査の定義（継続）						ハ-1. 「BIMデータ審査」の定義（案） ハ-2. 「BIMデータ審査」実現に向け必要な成果・検討項目案			
	必要な情報・取扱条件（素案）の検討等※									
	IFCデータの要件・ルール（素案）等の検討※									
	必要な成果等の洗い出し※									
ハ-3. 「BIMデータ審査」に対応した確認申請用CDE	IFC及びCDE仕様の検討※									
	同上（継続）									
	CDEビューイング機能の製造およびプロトタイプCDE試作※	審査項目の関係性・審査方法の明確化								
		プロトタイプの試作								
		機能の実装・拡張に向けた検討（継続）								
	「確認申請用CDE(プロトタイプ)」等の説明資料作成									
	審査補助機能の実装	既存の法チェックツールの整理（継続）								
		審査補助機能の実装に向けた検討								
ハ-4. 「BIMデータ審査」に必要なツール等（具体的な内容は、ハ-2等を踏まえて設定）（2025年度以降）										

※いくつかのテーマを選定して実施

年度の成果のとりまとめ・報告書作成

環境整備部会

意見照会について

意見照会の概要

- BIM図面審査に係る周知、及び入出力基準・設計者チェックリストをより実効性のあるものとする事等を目的とし、右の2つを建築BIM推進会議HPに公開し、関係団体等を通じた意見照会を実施しました。
- 意見照会の参考となるよう、参考テンプレート等を設計三会・BIMライブラリ技術研究組合のHPに公開しました。

■意見照会の対象資料：建築BIM推進会議HPに公開

- 建築確認におけるBIM図面審査ガイドライン（素案）
- 入出力基準・設計者チェックリスト（素案）

※構造については、RC造・S造版を公開

■スケジュール

- 2024.8.2：HP公開（その後、関係団体に対する意見照会の依頼）
- 2024.9.13：意見提出締切
- 2024.12月中：意見に対する回答の公表

■参考資料：設計三会・BIMライブラリ技術研究組合HPに公開

- 参考テンプレートの設定ファイル
- 小規模ビルサンプルモデルのオリジナルデータ・IFCデータ・PDF形式の図書

意見照会の概要

■ 関係団体等別 意見を提出した社・団体数、意見数

関係団体・部会名	意見を提出した社・団体数	意見数		
		①建築確認におけるBIM図面審査ガイドライン（素案）	②入出力基準・設計者チェックリスト（素案）	③その他
（公社）日本建築士会連合会	23	82	93	16
（一社）日本建築士事務所協会連合会	34	59	34	18
（公社）日本建築家協会	17	110	98	13
（一社）日本建築構造技術者協会	9	92	78	8
（一社）日本設備設計事務所協会連合会	3	6	10	0
（一社）建築設備技術者協会	12	59	62	9
日本建築行政会議	213	458	145	47
（一財）日本建築センター	1	18	18	0
（一社）日本建設業連合会	8	51	43	5
（一社）全国建設業協会	54	67	22	13
（一社）日本電設工業協会	3	3	2	0
（一社）日本空調衛生工事業協会	3	12	3	1
（一社）住宅生産団体連合会	10	43	34	14
（公社）日本ファリティマネジメント協会	1	1	0	1
BIMライブラリ技術研究組合	8	25	24	2
（一社）日本建築学会	8	74	113	9
（一社）建築・住宅国際機構	1	0	0	0
建築確認におけるBIM活用推進協議会	11	111	56	5
不明	13	44	40	3
合計	432	1,315	875	164

※意見を提出した社・団体数及び意見数には重複を含む。また意見数には「特になし。」等を含む（空欄は含まない）。

意見照会結果を踏まえた今後のスケジュール

- 意見を踏まえた見直し検討を行い、以下について第19回建築BIM環境整備部会（2024.12月頃）において報告する予定です。
 - 建築確認におけるBIM図面審査ガイドライン（案）2024.12月版
 - 入出力基準（案）2024.12月版
 - 設計者チェックリスト（案）2024.12月版
- あわせて2024.12月中に、主な意見に対する回答を建築BIM推進会議HPに公表する予定です。

サンプルモデル公開について（部会2）

8/6 公開：意匠Revit・Archicad版

8/6 公開：構造・設備

9/26公開：意匠VectorWorks・Gloobe版

●サンプルモデル：入出力基準を満たすよう入力したBIMデータの例

本サンプルモデルは、建築確認におけるBIM図面審査ガイドライン、入出力基準及び設計者チェックリストに沿って、BIM図面審査を申請することが出来るBIMデータとして作成したもので、設計者が整合性確認省略を求める項目を「一例」として選択し、作成したモデルです。

注記

なお、BIM図面審査ガイドラインに記載されている通り、入出力基準は、設計者が整合性確認省略を求める項目について適用するものであり、全ての案件で全項目の適用を求めるものではありません。このように、本サンプルモデルは、あくまでも一例であり、一様に設計者の入出力を縛るものではありません。

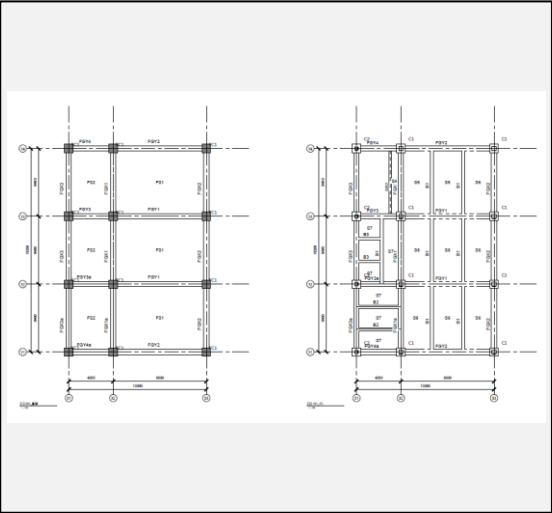
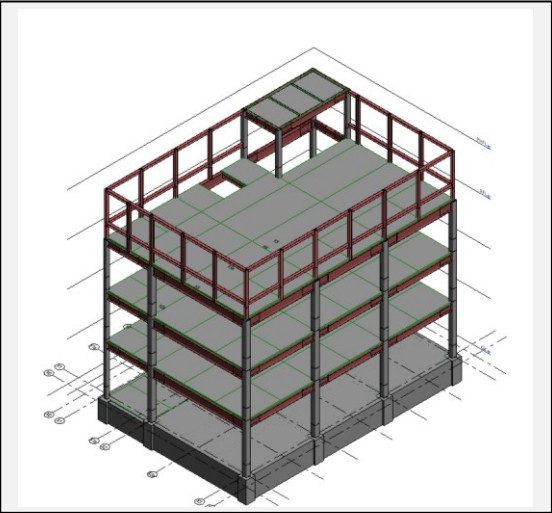
本サンプルモデルは、「設計BIMワークフローガイドライン」（建築設計三会）の「S3」レベルのモデルです。なお、BIM図面審査の理解を助けるための参考モデルですので、全ての法適合を満たすものではありません。

■ 公開しているサンプルモデル

種別	BIMソフトウェア	ネイティブ	申請図PDF	参考IFC	設計者チェックリスト記入例
意匠	Revit	○	○	○	○
	Archicad	○	○	○	○
	Vectorworks	○	○	○	○
	GLOOBE	○	○	○	○
構造	Revit	○	○	○	○
設備 (電気・機械)	Revit	○	○	○	○
	Rebro	○	○	○	—
	CADWe'll T-fas/Linx	○	○	○	—
	CADEWA Smart	○	○	○	—
	FILDER Ceed	○	○	○	—

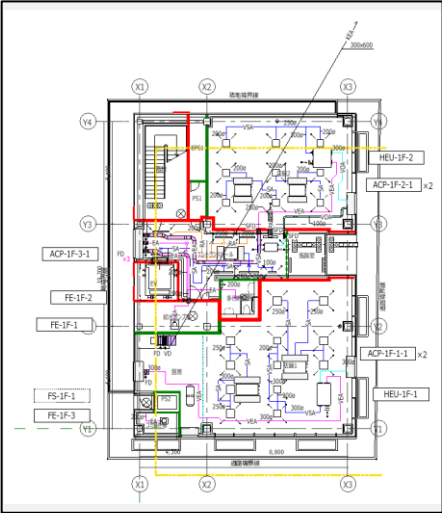
■ サンプルモデル (構造)

Revit

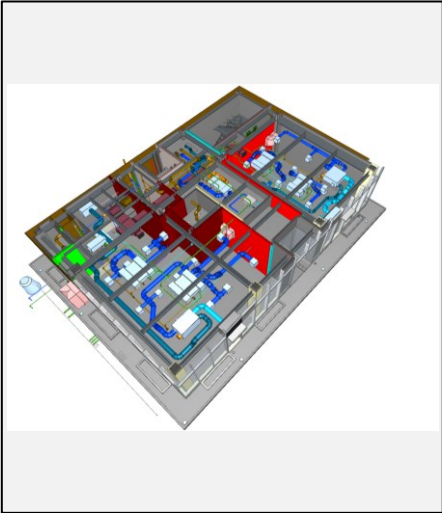


■ サンプルモデル (設備)

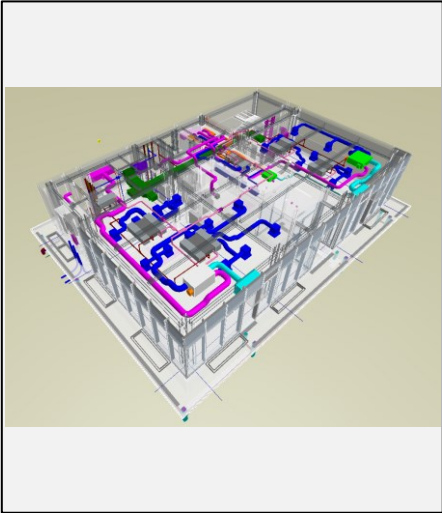
Revit



Rebro



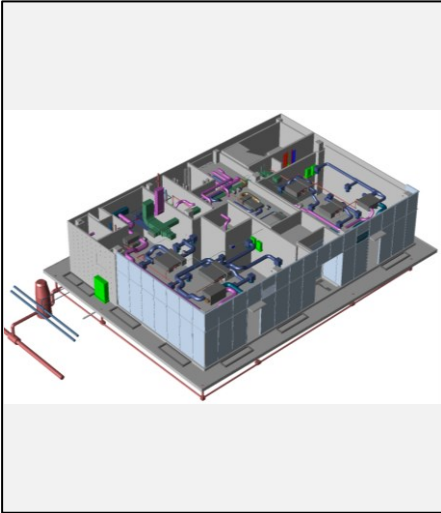
CADEWA Smart



CADWe' ll Linx



FILDER Ceed



● サンプルモデルより出力した確認申請図： 入出力基準を満たすよう出図した申請図例

確認申請図は、各サンプルモデルのデータに内包されていますが、参照し易いように、PDF出力したものも公開しています。

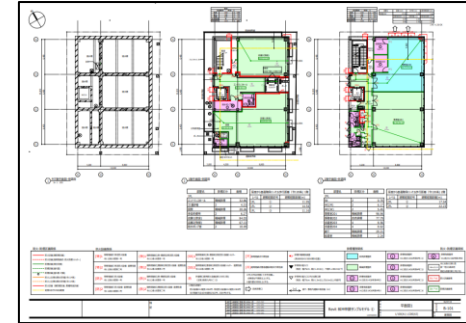
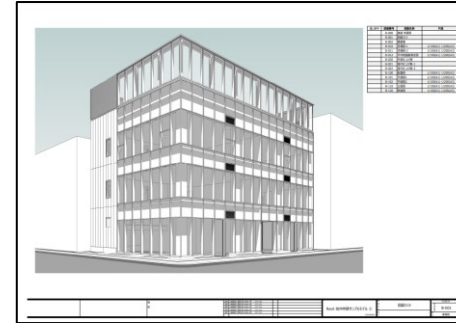
なお、本図は、入出力基準書に関連する図面を出力したものです。確認申請に必要な図面を全て揃えたものではありませんので、ご注意ください。

注記

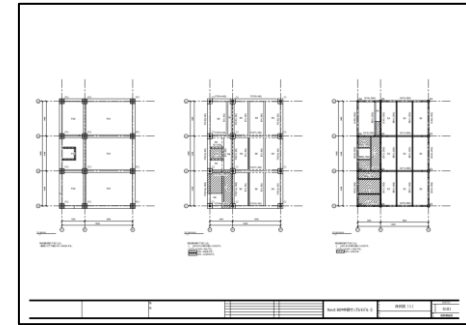
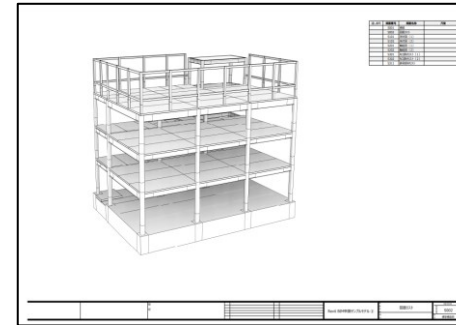
なお、BIM図面審査ガイドラインに記載されている通り、入出力基準は、設計者が整合性確認省略を求める項目について適用するものであり、全ての案件で全項目の適用を求めるものではありません。このように、本サンプルモデルは、あくまでも一例であり、一様に設計者の入出力を縛るものではありません。

本サンプルモデルは、「設計BIMワークフローガイドライン」（建築設計三会）の「S3」レベルのモデルです。なお、BIM図面審査の理解を助けるための参考モデルですので、全ての法適合を満たすものではありません。

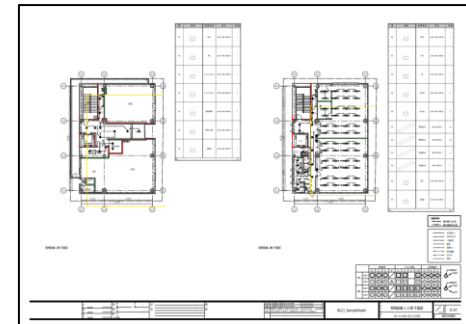
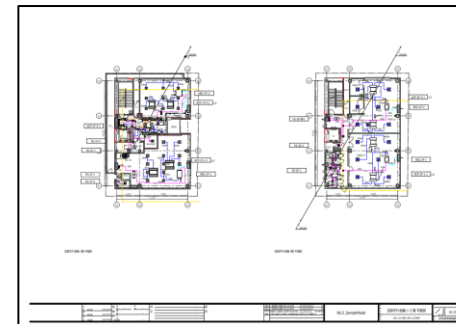
■ 公開している確認申請図例 意匠図



構造図



設備図



●設計者チェックリスト記入例：サンプルモデルに基づいた入力例

建築BIM推進会議HPに公開された「入出力技術書・設計者チェックリスト（素案）」を用い、各BIMソフトウェア版のサンプルモデルに基づいた入力例を公開しています。

本チェックリストは記入の一例になります。一様に設計者の入出力を縛るものではありません。

■ 公開している設計者チェックリスト記入例

①設計者チェックリスト（意匠）【Revit サンプルモデル①入力例】

※：継続検討中のため、サンプルモデルでは Revit を添付していません。

番号	項目	入出力の方法	入出力基準に従って作成し、整合性確認の省略を求める図面														備考
			平面図	断面図	立面図	透視図	3Dモデル	断面図	立面図	透視図	3Dモデル	断面図	立面図	透視図	3Dモデル	断面図	
図-001	敷地境界線	①形状	敷地境界線の形状は、敷地境界線オブジェクトを用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
		②種別（道路境界線、隣地境界線などの別）	敷地境界線の種別は、敷地境界線オブジェクトに属性情報として入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
		③各辺の長さ	敷地境界線の各辺の長さは、敷地境界線オブジェクトの属性情報を用いて表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
		④敷地面積	敷地面積は、敷地境界線オブジェクトで自動算出し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
図-002	方位	-	方位は、方位オブジェクトを入力する。又は BIM データを入力した方位の機能に連動する機能を用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
図-003	通り芯	①形状	通り芯の形状は、通り芯オブジェクトを用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
		②符号	通り芯の符号は、通り芯オブジェクトの属性情報を用いて表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
		③通り芯間の寸法	通り芯間の寸法は、オブジェクトと連動して距離を表示する機能（寸法線ツール）を用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
図-004	外壁	①形状	外壁の形状は、壁オブジェクトを用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
		②位置	外壁の位置（敷地境界線から通り芯までの距離及び敷地境界線から外壁面までの距離）は、オブジェクトと連動して距離を表示する機能（寸法線ツール）を用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
図-005	軒、ひさし等	①形状	軒、ひさし等の形状は、屋根/床等のオブジェクトを用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
		②位置	軒、ひさし等の位置（敷地境界線から通り芯までの距離及び敷地境界線から軒、ひさし等の先端までの距離）は、オブジェクトと連動して距離を表示する機能（寸法線ツール）を用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
図-006	間仕切壁	①形状	間仕切壁の形状は、壁オブジェクトを用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
		②位置	間仕切壁の位置（通り芯から間仕切壁までの距離）は、オブジェクトと連動して距離を表示する機能（寸法線ツール）を用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
図-007	各室の用途	①室名等	各室の用途は、各室の床面積の求積に用いる空間オブジェクトに属性情報として入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
図-008	各階基準線	①形状	各階基準線の形状は、レベルを設定するオブジェクトを用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
		②符号	各階基準線の符号は、レベルを設定するオブジェクトの属性情報を用いて表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
		③各階基準線間の寸法	各階基準線間の寸法は、オブジェクトと連動して距離を表示する機能（寸法線ツール）を用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
図-009	各階の床、軒、ひさし・屋根（天井のない場合は、屋根）	①形状	各階の床、軒、ひさし・屋根の形状は、床/屋根/壁等のオブジェクトを用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
		②地盤面からの建築物の各部分の高さ、平均地盤面からの建築物の各部分の高さ	地盤面・平均地盤面は、レベルを設定するオブジェクトを用いて入力し、表示・表記する。 地盤面又は平均地盤面からの建築物の各部分の高さは、地盤面又は平均地盤面を基点とし、オブジェクトと連動して各部分の高さを表示する機能又はオブジェクトと連動して距離を表示する機能（寸法線ツール）を用いて入力し、表示・表記する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														
図-010	建築面積の求積に必要な建築物の各部分の寸法及び算式	-	建築面積の求積に用いる空間オブジェクトは、その境界が令第3条第2号の基準に適合するよう入力する。 空間オブジェクトを軒等の端から後述で入力する場合、当該空間オブジェクトと軒等の端からの寸法は、軒等のオブジェクトと当該空間オブジェクトと連動して距離を表示する機能（寸法線ツール）を用いて入力し、表示・表記する。 建築面積は、当該空間オブジェクトで自動算出し、表示・表記する。 建築面積求積図には、当該空間オブジェクトの水平投影と、建築面積の求積範囲のわかる図（例：屋根状況図）を表示する。 図表の整合性を損なう入出力は行わない。														

サンプルモデルパラメータに関する補足説明資料 (8/9公開)

●サンプルモデルパラメータに関する補足説明資料：関連パラメータのソフトウェア間の対応表

本資料はBIM図面審査に関わるパラメータを、ソフト間の相違も分かるように一つの表でまとめたものです。入出力基準との対応がわかるようにまとめています。

■ 公開しているサンプルモデルパラメータに関する補足説明資料(一部)

注記

今回の整合する明示事項によっては、パラメータを利用せず、オブジェクト等を利用しているものもあります。その場合は、オブジェクトカテゴリやパラメータ名に”※オブジェクト”のようにパラメータ名ではないことを※印で示しています。

BLCJ BIMオブジェクト標準Ver2.0欄のパラメータの一部は、まだ一般公開されていないものが含まれています。

ここに複数のパラメータを示しているように、サンプルモデルのパラメータは、あくまで一例であり、一様に設計者の利用するパラメータを縛るものではありません。

[illegible]

●ソフトウェアごとの用語読み替え表：
入出力基準の用語を各ソフトウェア固有
の用語に対応

入出力基準・設計者チェックリストは、建築BIMソフトウェアに依存しない一般的な用語で記載されていますが、実際に入出力基準を適用する際には、各ソフトウェアの固有な用語で記載された説明書があると理解し易くなります。

入出力基準・設計者チェックリストの順に従って、各ソフトウェアの固有な用語を一覧にした表を公開しています。

なお、本表はあくまで参考であり、一様に設計者の入力方法や表現方法を縛るものではありません。

■ 公開している用語読み替え表（一部）

番号	入出力基準		ソフトウェア	ソフトウェアの読み替え
	入出力基準に記述のない場合、設計者の意思で読み替えられる事項	入出力の方法		
第-001	敷地境界線	入出力基準書参照	Revit	敷地境界線の種別は属性情報として入力することができないため、各図面に二次元加算で表記する。立面図および断面図への敷地境界線の表示は二次元加算で表記する。
			ArchCAD	境界線種別では該当するオブジェクトが無いため、該当する図面層で移動する線にマウスカーソルを用いて入力する。オブジェクトで敷地境界線を作成する場合は「サブレイア」を「通り窓マーカー」で作成して各図面層の整合を確保する。それ以外のやり方では各図面の長さの属性情報は取得できないので二次元加算で表記する。
			Vectorworks	敷地境界線の種別は属性情報として入力することができないため、各図面に二次元加算で表記する。立面図および断面図への敷地境界線の表示は二次元加算で表記する。
			GLOBBE	種別は、境界線オブジェクトで敷地境界・地盤オブジェクトの外形図に属性情報として入力し、敷地境界は、複数用途地盤時には、用途地盤オブジェクトごとに計算が行われる。
第-002	方位	入出力基準書参照	Revit	境界線種別では方位オブジェクトが無い。回転角度を入力する事で図面表示の向きが回転する。一般に方位オブジェクトを用いる事で対応する。
			ArchCAD	特にソフト特有の読み替えはないが、方位オブジェクトは「アライメント」の表示設定を「アライメント」にする。
			Vectorworks	ソフト特有の読み替えはない。
			GLOBBE	ソフト特有の読み替えはない。
第-003	通り窓	入出力基準書参照	Revit	断面図や立面図の図面表示で設定していない通り窓は表示することができないため、その部分は二次元加算で表示・表記する。
			ArchCAD	ソフト特有の読み替えはない。
			Vectorworks	ソフト特有の読み替えはない。
			GLOBBE	ソフト特有の読み替えはない。
第-004	角壁	入出力基準書参照	Revit	ソフト特有の読み替えはない。
			ArchCAD	ソフト特有の読み替えはない。
			Vectorworks	ソフト特有の読み替えはない。
			GLOBBE	特にソフト特有の読み替えはないが、材質によっては仕上りオブジェクトを利用することもある。
第-005	軒出し等	入出力基準書参照	Revit	ソフト特有の読み替えはない。
			ArchCAD	ソフト特有の読み替えはない。
			Vectorworks	ソフト特有の読み替えはない。
			GLOBBE	特にソフト特有の読み替えはないが、仕様によっては3Dカタログ製品や汎用オブジェクトを利用することもある。
第-006	開口位置	入出力基準書参照	Revit	ソフト特有の読み替えはない。
			ArchCAD	ソフト特有の読み替えはない。
			Vectorworks	ソフト特有の読み替えはない。
			GLOBBE	ソフト特有の読み替えはない。
第-007	各部の用途	入出力基準書参照	Revit	ソフト特有の読み替えはない。
			ArchCAD	ソフト特有の読み替えはない。
			Vectorworks	ソフト特有の読み替えはない。
			GLOBBE	確認申請書第5面の「用途」は、床面積図面オブジェクトに属性情報として入力し、図ごとに用途別床面積計算を行う。
第-008	各部基準線	入出力基準書参照	Revit	ソフト特有の読み替えはない。
			ArchCAD	各部基準線の形式、符号は「アライメント」の表示設定を用いる。
			Vectorworks	ソフト特有の読み替えはない。
			GLOBBE	図面単位で設定を行う。特にオブジェクトを使い必要はない。
第-009	各部の床・軒・ひし等の高さ（文字のない場合は、基準）	入出力基準書参照	Revit	地盤面・平均地盤算定で算出した数値と、立面図等に表示するレベルを設定するオブジェクトは連動させる事ができないため、手動で数値を整合させる必要がある。
			ArchCAD	地盤面・平均地盤算定で算出した数値と、立面図等に表示するレベルを設定する基準線は連動させる事ができないため、手動で数値を整合させる必要がある。
			Vectorworks	地盤面・平均地盤算定で算出した数値と、立面図等に表示するレベルを設定する基準線は連動させる事ができないため、手動で数値を整合させる必要がある。
			GLOBBE	特にソフト特有の読み替えはないが、必ず品質チェック機能を使い作成する（平均地盤算定機能など）。

サンプルモデルの公開時からの修正・変更点（主なもの）

日付	更新対象	更新内容	備考
2024 8/7	・【意匠】Revit版サンプルモデル①②（ネイティブ、PDF）	・ 防火区画表現に関する注記を一部修正	
2024 8/8	・【意匠】Archicad版サンプルモデル（ネイティブ、PDF）	・ 敷地境界線の注記を修正 ・ カーテンウォール底の修正	
2024 8/9	・【意匠】設計者チェックリスト記入例 ・【意匠】サンプルモデルパラメータに関する補足説明資料	新規追加	
2024 8/27	・【意匠】Revit版サンプルモデル①②（ネイティブ、PDF）	・ 不要なビュー、パス、不要な表の削除、断面図一部修正	
	・【意匠】Archicad版サンプルモデル（ネイティブ、PDF）	・ 面積表の修正	
	・【設備】Revit版サンプルモデル①②③（ネイティブ）	・ リンクする意匠Revitファイル名を最新の内容に修正	
	・【設備】設計者チェックリスト記入例 ・【設備】ソフトウェアごとの用語読み替え表（機械設備・電気設備）	新規追加	
2024 8/29	・【設備】Revit版サンプルモデル①②③（ネイティブ）	・ 意匠Revitモデルの参照面などが設備図に表示されないように修正	
2024 9/17	・【意匠】ソフトウェアごとの用語読み替え表（意匠）	新規追加	
2024/9/19	・【意匠】サンプルモデルパラメータに関する補足説明資料	・ Vectorworks、GL00BEの対応表を追加	
2024/9/26	・【意匠】Vectorworksサンプルモデル ・【意匠】GL00BEサンプルモデル ・ GL00BE図面審査用テンプレート	新規追加	

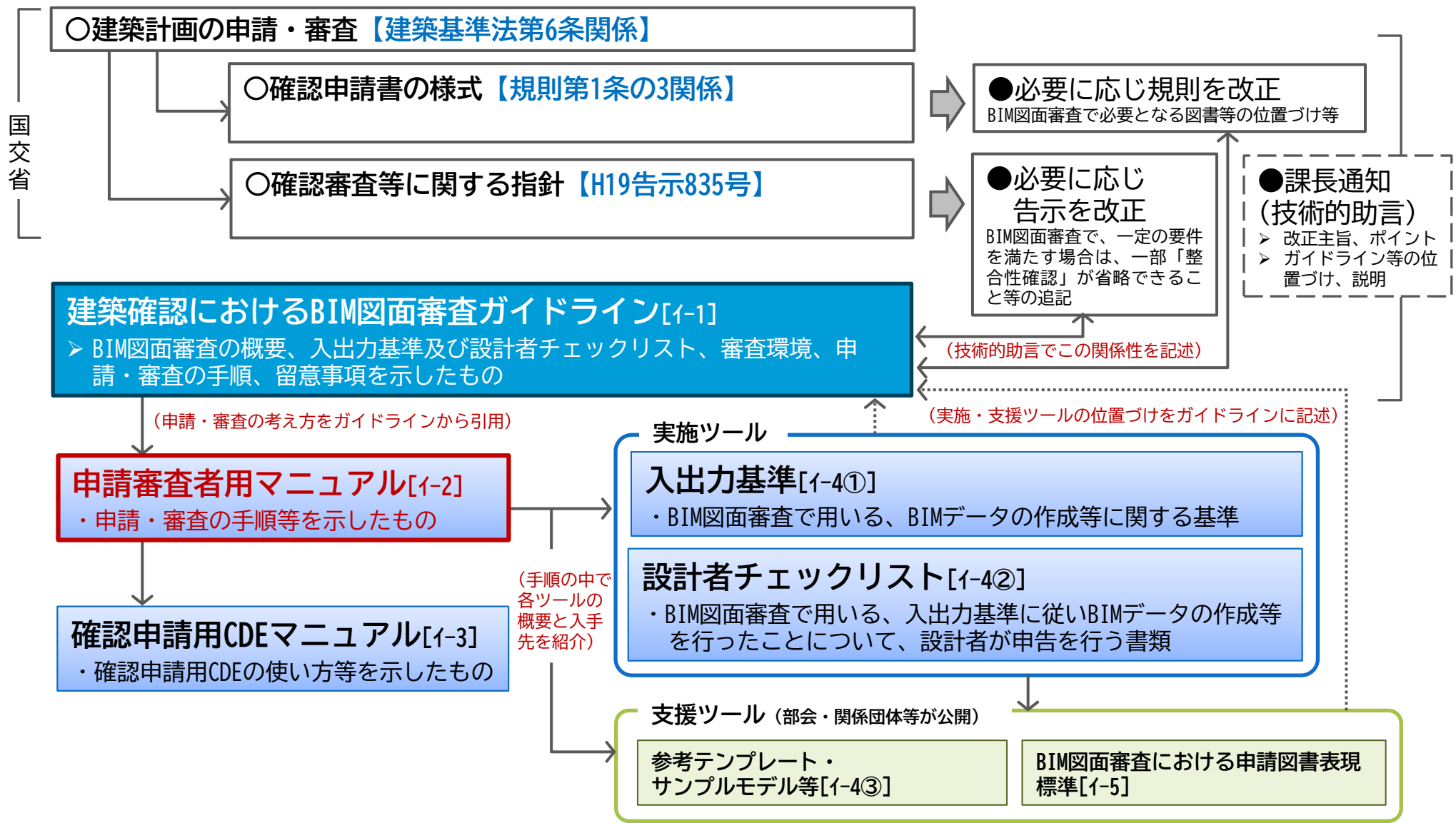
申請・審査マニュアル構成案について（部会3）

BIM図面審査開始に向けた、指針・ツール等の整備

※以降の内容は検討中のものであり今後、変わる可能性があります。

申請審査者用マニュアルの位置づけ

■ ガイドライン・マニュアル、各種ツールの位置づけ



BIM図面審査 申請審査者用マニュアル 目次構成・項目等（案）

マニュアルの目次構成・項目等	内容	ガイドラインとの関係
はじめに	・ BIM活用の将来像とBIM図面審査の位置づけ ・ 本マニュアルの位置付け	○はじめに
I. BIMを活用した建築		
1. 「BIM 図面審査」の概要	・ 「BIM図面審査」の定義、提出物の内容、審査の手順等を概説	2-1 BIM図面審査の定義
2. 用語の定義	・ ガイドラインでの定義に加え、マニュアル固有の用語等を定義	1-2 用語の定義
II. 申請者側の準備		
1. 実施ツールの準備	・ BIM図面審査に必要となる「入出力基準」「設計者チェックリスト」その他「BIM図面審査における申請図書表現標準」の説明と入手先の案内	3-1 入出力基準 3-2 設計者チェックリスト 3-3 BIM図面審査における申請図書表現標準
2. 実施ツールの活用	・ 実施ツールの活用の仕方を説明	
2-1. 実施ツールを活用したBIM モデルの作成	・ 一般的なBIMモデルの作成に対し、BIM図面審査を想定したBIMモデル作成のイメージを解説	
2-2. 「入出力基準」の構成と概要	・ 「入出力基準」の基準構成について説明	(3-1)
2-3. 「設計者チェックリスト」の様式と記載内容	・ 「設計者チェックリスト」の様式の構成、記載すべき内容について説明	(3-2)
2-4. BIM・図面審査における申請図書表現標準	・ 「凡例」及び「サンプル図面」の概要を説明	(3-3)

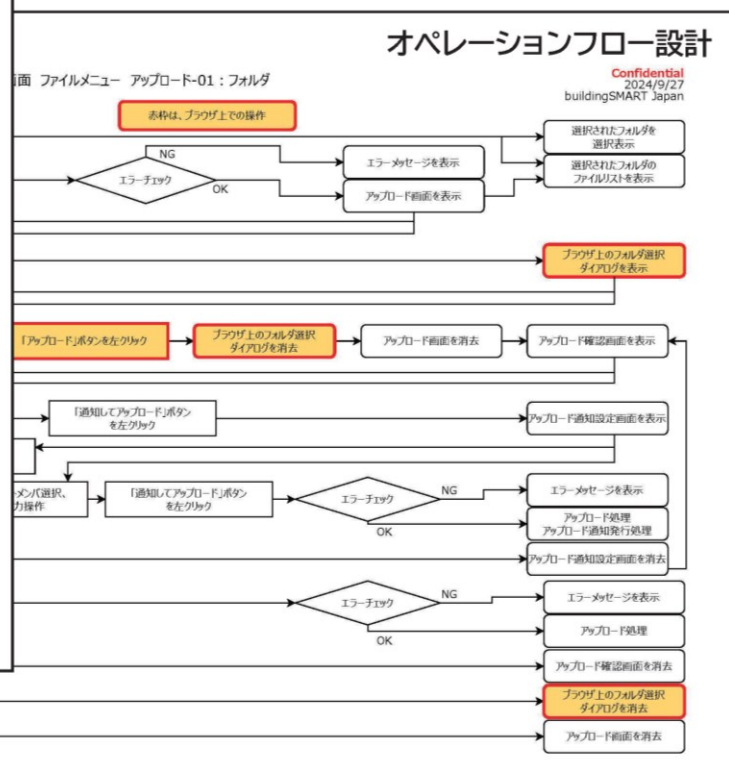
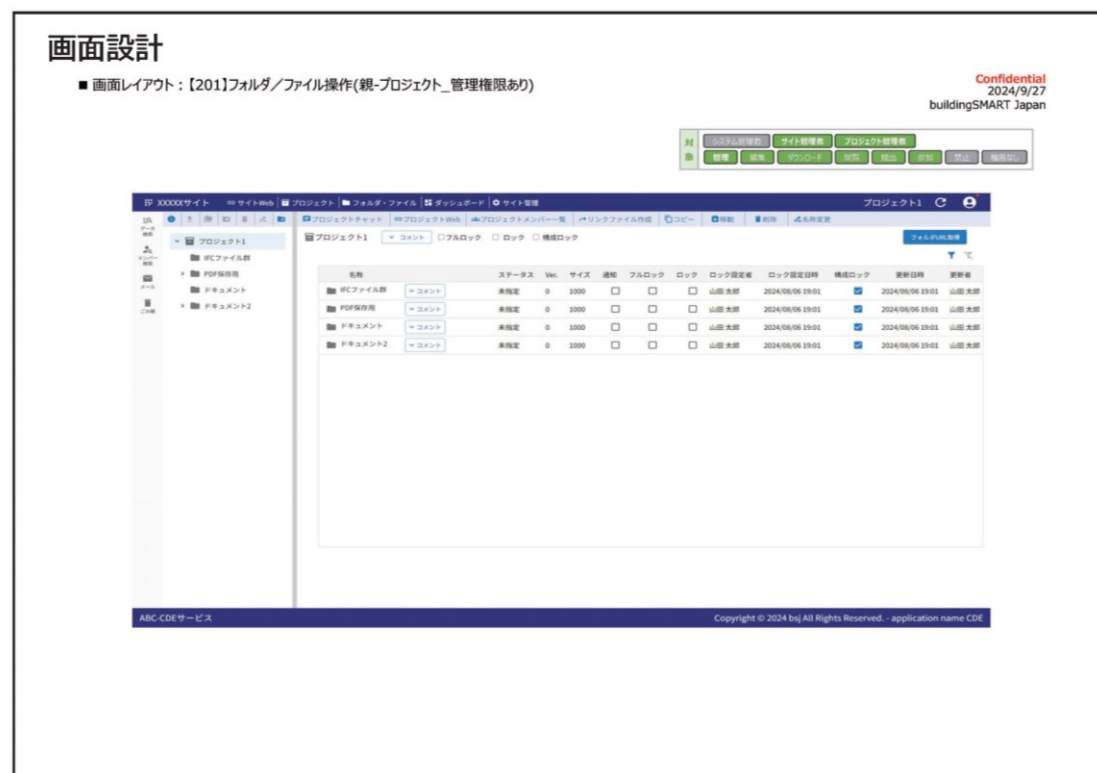
マニュアルの目次構成・項目等	内容	ガイドラインとの関係
Ⅲ. 審査者側の準備		
	・「電子申請受付システム」及び「確認申請用CDE」を用いた審査環境の整備の仕方を説明	4 審査環境
Ⅳ. 申請の手順		
1. 申請書作成・提出	・申請書を作成し、「電子申請受付システム」とおして審査者へ提出する手順を説明	5 申請及び審査の手順 STEP1 申請図書作成～申請
2. 申請図書等の作成・提出	・申請図書等を作成し、「確認申請用CDE」にデータをアップロードする手順を説明	5 申請及び審査の手順 STEP1 申請図書作成～申請 6-2 その他の留意事項について ○PDF形式の図書データへの変換方法について ○IFC データへの変換方法およびIFC データのルールについて
Ⅴ. 審査の手順		
	・フロー図で全体像を説明	
1. 申請図書等の確認		
1-1. 書類の不備等の確認	・確認申請用CDEにアップロードされている申請図書等の確認の手順を説明	5 申請及び審査の手順 STEP2 仮受付 STEP3 本受付・指摘対応 6-2 その他の留意事項について ○IFC データに不備がある場合の取り扱いについて
1-2. 整合性確認の省略について	・整合性確認の定義、目的、対象、仕組みについて説明	6-1 整合性確認の省略について

マニュアルの目次構成・項目等	内容	ガイドラインとの関係
V. 審査の手順（続き）		
2. 審査の実施 2-1. 審査 2-2. 補正等を求める書面の交付（指摘事項の送付） 2-3. 図書の補正/確認	・ 審査の手順、及び不備がある場合において申請者に補正を求める手順等を図解	5 申請及び審査の手順 STEP2 仮受付 STEP3 本受付・指摘対応 6-2 その他留意事項について ○モデル閲覧の要否方法・範囲について ○同一モデルからの書き出し確認の要否について ○オリジナルデータ利用の可否について
3. 適合性判定 3-1. 審査及び補正等を求める書面の交付（指摘事項の送付） 3-2図書の補正/確認	・ 適合性判定に係る審査手順及び不備がある場合において申請者に補正を求める手順等を図解	5 申請及び審査の手順 STEP4 適合性判定
4. 消防同意・確認済証交付・図書保存 4-1. 消防同意 4-2. 適合性判定 4-3. 確認済証の交付 4-4. 図書保存	・ 消防同意、確認済証の交付、図書の保存に係る手順を図解	5 申請及び審査の手順 STEP5 消防同意・確認済証交付・図書保存 6-2 その他留意事項について ○審査済データの保存環境について ○IFC データの保存要否・方法等について
5. 完了検査等	・ 審査済図書（IFCモデルのデータではない）を用いて検査することなどを説明	5 申請及び審査の手順 STEP6 施工・工事監理・完了検査

確認申請用CDEの進捗について (部会5)

確認申請用CDEの進捗について

- ・ 情報共有機能、ビューイング機能・基盤機能の骨格機能について外部機能設計（画面遷移設計、画面設計、オペレーションフロー設計、データ設計、他）をほぼ終了し、プログラム設計が進行中であり、10 月よりプログラム製造を開始し、単体テストを今年度中に終了する予定です。
- ・ 2025年度は、API 機能、受付システムとの連携機能の外部機能設計、および情報共有機能、ビューイング機能・基盤機能の詳細機能についてのプログラム設計・製造・単体テスト、結合テスト・総合テスト、UAT 支援・対応、マニュアル作成（一般ユーザマニュアル、管理ユーザマニュアル、運営者マニュアル）、研修支援を行う予定です。



確認申請用CDEの進捗について

■ スケジュールおよび進捗状況（9月末）

項 目		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
2024 年度の開発範囲設定	予定												
	実施												
外部機能設計	予定												
	実施												
プログラム設計	予定												
	実施												
プログラム製造	予定												
	実施												
単体テスト	予定												
	実施												
電子申請受付システムとの連携のための仕様策定	予定												
	実施												

確認申請用CDEの進捗について

■ 画面遷移

